

産地戦略

実施主体 松本園芸推進協議会
 都道府県 長野県
 対象地域 松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村
 対象品目 スイートコーン



実施期間 令和6～10年度

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

松本地域は、恵まれた気象条件や大消費地に近い立地条件を活かし、野菜の総合供給産地として着実な発展をとげながら、今日の長野県野菜生産の重要な役割を担っているが、担い手の高齢化に伴う生産力の低下、主要品目における連作障害の発生に加え、肥料等資材価格の高騰、気象災害の頻発化など、産地を取り巻く情勢は非常に厳しいものとなっており、産地の持続化には課題がある。

このため、当該産地で導入の進んでいない環境にやさしい栽培技術（局所施肥）及び省力化技術（生分解性マルチ）の導入を検討し、環境負荷軽減に向けた意識向上及び作業の省力化を推進することにより、産地の持続的発展を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名	耕 う ん	播 か ん 種 水 チ ン グ	マ ル チ 散 布	除 草 剤 散 布	追 土 寄 肥 せ	追 肥 除	病 害 虫 防 除	病 害 虫 防 除	病 害 虫 防 除	収 穫	圃 場 片 付 け			松本地域における一般的な作業体系
技術名	特になし													

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名	耕 う ん	播 か ん 種 水 チ ン グ	マ ル チ 散 布	除 草 剤 散 布	追 土 寄 肥 せ	追 肥 除	病 害 虫 防 除	病 害 虫 防 除	病 害 虫 防 除	収 穫	圃 場 片 付 け			
技術名	生分解性マルチの活用 局所施肥										生分解性マルチの活用による省力化			<ul style="list-style-type: none"> 施肥段階に局所施肥技術を導入し、化学肥料施用量を低減 マルチング段階で生分解性マルチを活用し、片付け作業を省力化

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	126	▶ 126	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 2	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 2	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 2	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	全面全層施肥	▶ 局所施肥技術	化学肥料施用量の低減
省力	ポリマルチの使用	▶ 生分解性マルチの使用	片付け（マルチ剥ぎ取り作業）の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料施用量の低減	119kg/10a (N:23.8kg/10a)	▶ 95kg/10a (N:19.0kg/10a)	20%削減
省力	マルチ剥ぎ取り作業に係る人員の削減	2名	▶ 1名	50%削減

- * 環境にやさしい栽培技術のうち化学農業・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
- * 化学農業の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証した「局所施肥による化学肥料施用削減技術」と「生分解性マルチの利用」を組み合わせた栽培体系について広く情報発信を行い、産地における環境負荷軽減と作業の省力化に関する意識の向上を図るとともに、当該栽培体系の導入を進めることでスイートコーン産地の持続的発展を目指す。

関係者の役割

関係者名	長野県 (普及組織：松本農業農村支援センター)	J A	市村
役割	・ JAと連携した栽培マニュアルの活用による技術指導、グリーンな栽培体系の普及推進	・ 県と連携した栽培マニュアルの活用による技術指導、グリーンな栽培体系の普及推進	・ 農業者との調整、栽培マニュアルの周知等